

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	25221310	研究期間	平成 25 年度～平成 27 年度
研究課題名	骨代謝を制御する Wnt シグナルネットワークの解明	研究代表者 (所属・職) (平成28年3月現在)	高橋 直之 (松本歯科大学・総合 歯科医学研究所・教授)

【平成 27 年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
○	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究課題を構成する6つのプロジェクトは、達成目標に向け、総合的にみて順調に研究が進展している。一部の内容において遅延が認められるものの、適切かつ早い判断で研究計画の変更や追加が図られており、新たな知見を生み出すために十分な努力がなされていると理解できる。また、研究過程で発見された W9 ペプチドの骨形成促進作用を利用し、治療薬として企業との共同開発も展開するなど、研究成果の学術的価値の創出ばかりでなく、臨床応用化も視野に入れた有用性の高い研究が行われている。現時点で遅延が認められるプロジェクトの改善を行うと共に、WNT シグナルに着目した世界最先端の骨代謝研究の推進が望まれる。

【平成 28 年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、十分ではなかったが一応の成果があった。
B	<p>Wnt5a 遺伝子を中心とした Wnt シグナルネットワークの骨代謝における役割に関しては一部の目標を達成している。しかし、Sclerostin-EGFPマウスの作製による Sclerostin 抑制因子の解析、関節炎の骨破壊における Sfrp5 の役割の解析、歯周病モデルマウスにおける Wnt シグナルの役割の解析などについては進捗が不十分で、期待された成果が上がっていない。また、W9 ペプチドが「Wnt シグナル分子を標的とした治療：骨形成促進薬の開発」にどのように関与するのかが不明確である。加えて、研究成果報告書に具体的な研究結果の記載が不十分な研究項目が目立つ。</p> <p>以上のことから、当初の目標であった「骨代謝を調節する Wnt シグナルネットワークの全容解明」に対する成果が上がったとは言い難い。また、本研究費による成果と思われる論文発表も非常に少なかった。</p>